

令和7年度 1年生

久御山高校

シラバス

【科目案内と学習内容】

京都府立久御山高等学校

令和7年度 1年生シラバス 目次

国語科	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	1-01
地歴・公民科	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	1-03
数学科	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	1-05
理 科	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	1-07
保健体育科	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	1-09
芸術科	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	1-13
英語科	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	1-16
情報科	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	1-18
総合的な探究の時間	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	1-19

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
1-01	国語	現代の国語	1	S・A・P	2	必修

何を学ぶか

■高校で学ぶ国語の基本を学習する。現代文と表現からなる。現代の社会生活に必要とされる論理的な文章（評論文）や実用的な文章を学習する。表現では「話すこと・聞くこと・書くこと」に取り組む。

学習目標

- 実社会に必要な国語の知識や技能を身につける。
- 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばす。
- 他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりする。
- 言葉がもつ価値への認識を高め、読書に親しむ態度を養う。

学習方法

使用教科書【東書701 新編現代の国語】

現代文の予習では本文を音読し、漢字や語句の読み方・意味を調べておく。
授業では予習内容を確認し、読解のポイントの理解に努める。
自分やグループの意見や考えをまとめ、タブレット等を使って積極的に交流する。
目的や場に応じて様々な観点から意見をまとめ相手の立場や考えを尊重して適切な表現ができるようにする。

評価方法

知識・技能 30% : 定期考査、小テスト等により評価する。

思考・判断・表現 50% : 定期考査、学習課題等により評価する。

主体的に学習に取り組む態度 20% : 各種課題、振り返りシートへの取り組み状況等により評価する。

授業予定

「▼」は定期考査の実施時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月				
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬					
読む	随想	■					■	■	■	■			■	■	■												■	■		■	■	■	■			■	■		
	評論	■												■	■	■												■	■		■	■	■	■			■	■	
話す・聞く	話し合いの技法と表現	■	■																									■	■		■	■	■	■				■	■
	ディベート	■										■	■															■	■		■	■	■	■				■	■
	プレゼンテーション	■															■	■											■	■		■	■	■	■				■
書く	実用的な資料の作成	■																	■	■	■	■	■	■	■			■	■		■	■	■	■				■	■
	書き方の基礎・意見文	■				■	■				■																	■	■		■	■	■	■				■	■

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
1-02	国語	言語文化	1	S・A・P	2	必修

何を学ぶか

- 現代まで受け継がれてきた言語文化の学習を通し、日本の言語文化に対する知識や教養を身につける。またそれらを活用する資質・能力を養う。
- ・近代以降の文章に取り組み、現代文における文学的な要素を学習する。
 - ・古典(古文・漢文)を学習し、伝統的な言語文化について理解する。

学習目標

- 上代から近現代へと受け継がれてきた言語文化への理解を深める。
- 言語文化に対する知識や教養を活用する力を身につける。
- さまざまな文章に触れることで豊かな感性や情緒を養う。

学習方法

使用教科書【東書701 新編言語文化】

- 現代文
 - ・新しい文章に取り組む際には必ず事前に本文を読んでおくこと。また分からない漢字や語句については調べておくこと。
 - ・分からない点は次の授業までに解決しておくこと。答えを覚えるのではなく、自分で読み取れる力をつけることを心がけること。
- 古典(古文・漢文)
 - ・文のポイントを理解し、自力で現代語訳ができるように、単語や文法、句法を確実に覚えること。
 - ・現代社会との共通点や相違点に着目しながら、古典の常識を理解するように努めること。

評価方法

知識・技能 50% : 定期考査、小テスト等により評価する。

思考・判断・表現 30% : 定期考査、学習課題等により評価する。

主体的に学習に取り組む態度 20% : 各種課題、振り返りシートへの取り組み状況等により評価する。

授業予定

「▼」は定期考査の実施時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月				
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬					
現代文	小説	■														■	■	■	■	■							■	■									■	■	
古文	古文読解	■						■	■	■	■															■	■	■										■	■
	古典文法(用言)	■	■	■	■	■																																	
	古典文法(助動詞)	■																																					
漢文	訓読入門	■										■																											
	漢詩	■																																					
書く	意見文他	■																																					

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
1-03	地理歴史	歴史総合	1	S・A	2	必修

何を学ぶか

- ① 近代史・近現代史を中心に世界と日本の歴史を学ぶ。
- ② 「近代化」の時代を学ぶことにより国家の成り立ちを学ぶ。
- ③ 「国際秩序の変化や大衆化」について学ぶことで二度の世界大戦の展開・結果について学ぶ。
- ④ 「グローバル化」という視点から現代の世界規模の諸問題について学ぶ。

学習目標

社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を養う。

学習方法

使用教科書【山川出版707 歴史総合 近代から現代へ】

- ① 教科書に沿いながら学習を進め、授業に関連する出来事に関心を持つ。
- ② テーマに沿ってグループ学習や討論を行う。

評価方法

知識・技能 35% : 定期考査、小テスト等により評価する。

思考・判断・表現 40% : 定期考査、小テスト等により評価する。

主体的に学習に取り組む態度 25% : 各種課題、振り返りシートへの取り組み状況により評価する。

授業予定

「▼」は定期考査の実施時期を示す

科目／領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月				
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬					
近代化と私たち	結びつく世界	■	■										■	■	■											■	■								■	■			
	近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立	■			■	■								■	■	■										■	■									■	■		
	明治維新～帝国主義	■					■	■	■	■				■	■	■										■	■										■	■	
国際秩序の変化や大衆化と私たち	第一次世界大戦と大衆社会	■								■	■		■	■	■											■	■										■	■	
	経済危機と第二次世界大戦	■																	■	■	■						■	■									■	■	
	戦後の国際秩序と日本の改革	■																					■	■			■	■										■	■
グローバル化と私たち	冷戦と世界経済	■																							■	■	■		■	■								■	■
	グローバル化する世界、現代の課題	■																																■	■	■	■		

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
1-04	公民	公共	1	S・A・P	2	必修

何を学ぶか

- ① 現代社会や個人の生き方に対する関心を高め、自らがどのように行動すべきか考える力を養うための「倫理」
 - ② 国家と民主政治、憲法と国民生活、基本的人権、政治のしくみ、国際社会の動向などの「政治」
 - ③ 戦後日本経済の歴史、資本主義経済のしくみ、金融・財政、海外貿易などの「経済」
- 以上の三分野について学ぶ。

学習目標

人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり 解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的 に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を養う。

学習方法

使用教科書【第一学習社711 高等学校 新公共】

- ① 教科書に沿いながら学習を進め、授業に関連する出来事に関心を持つ。
- ② テーマに沿ってグループ学習や討論を行う。

評価方法

知識・技能 40% ： 定期考査、小テスト等により評価する。

思考・判断・表現 40% ： 定期考査、小テスト等により評価する。

主体的に学習に取り組む態度 20% ： 各種課題、振り返りシートへの取り組み状況により評価する。

授業予定

「▼」は定期考査の実施時期を示す

科目／領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
公共の扉	公共的な空間を作る私たち	■	■																																		
	公共的な空間での基本原理	■			■	■	■																														
社会形成に 参画する 私たち	法的な主体となる私たち	■						■	■	■	■	■																									
	政治的な主体となる私たち	■														■	■	■	■	■	■																
	経済的な主体となる私たち	■																							■	■	■		■	■	■	■					
持続可能な 社会形成	ケーススタディ①	■																					■	■													
	ケーススタディ②	■																																			

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
1-05	数学	数学Ⅰ・A	1	S・P	3+2	必修

何を学ぶか

- ・数学Ⅰは、数と式、集合と命題、2次関数、図形と計量、データの分析を学びます。
- ・数学Aは、場合の数と確率、図形の性質を学びます。
- ・高等学校数学の基礎的な定理や公式を証明し、それらの演習問題を解くことを通して、数学的な能力を身に付けていきます。

学習目標

- ・基礎的な知識の習得や問題を解く力の習熟を目指します。
- ・事象を数学的に考察し、処理する能力を養います。
- ・将来の進路希望を実現できるように、実践的な力を養います。

学習方法

使用教科書【数研出版714 新編 数学Ⅰ／数研出版714 新編 数学A】

- ・予習は、教科書に目を通し、例題の解法について理解に努め、疑問点をまとめます。
- ・復習は、習った例題や練習問題をもう一度、自分で解きます。理解できないところは、担当の先生に質問してください。問題集の類題を解くと、さらに理解が深まります。
- ・毎日続けることが大切です。

評価方法

知識・技能 40% : 定期テスト、課題テスト、小テスト等による目標への到達度を中心に評価します。

思考・判断・表現 40% : 定期テスト、課題テスト、小テスト等による目標への到達度を中心に評価します。

主体的に学習に取り組む態度 20% : 課題学習等の提出状況、及び学習の振り返りや授業中の取り組み状況を中心に評価します。

授業予定

「▼」は定期考査の実施時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
数学Ⅰ	数と式	■	■											■	■	■										■	■									■	■
	集合と命題	■									■			■	■	■										■	■									■	■
	2次関数	■						■	■	■	■			■	■	■										■	■									■	■
	図形と計量	■									■	■	■	■	■	■				■	■	■				■	■									■	■
	データの分析	■									■	■	■	■	■	■										■	■									■	■
数学A	場合の数と確率	■			■	■	■				■	■	■	■	■	■				■	■	■				■	■									■	■
	図形の性質	■									■	■	■	■	■	■							■	■		■	■								■	■	■

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
1-06	数学	数学Ⅰ・A	1	A	3+2	必修

何を学ぶか

- ・数学Ⅰは、数と式、集合と命題、2次関数、図形と計量、データの分析を学びます。
- ・数学Aは、場合の数と確率、図形の性質を学びます。
- ・高等学校数学の基礎的な定理や公式を証明し、それらの演習問題を解くことを通して、数学的な能力を身に付けていきます。

学習目標

- ・基礎的な知識の習得や問題を解く力の習熟を目指します。
- ・事象を数学的に考察し、処理する能力を養います。
- ・将来の進路希望を実現できるように、実践的な力を養います。

学習方法

使用教科書【数研出版714 新編 数学Ⅰ／数研出版714 新編 数学A】

- ・予習は、教科書に目を通し、例題の解法について理解に努め、疑問点をまとめます。
- ・復習は、習った例題や練習問題をもう一度、自分で解きます。理解できないところは、担当の先生に質問してください。問題集の類題および副教材の例題を解くと、理解が深まり、応用力がつきます。
- ・毎日続けることが大切です。
- ・進学に向けた取り組み(講習等)に積極的に参加することで実践力を高めます。

評価方法

知識・技能 40% : 定期テスト、課題テスト、小テスト等による目標への到達度を中心に評価します。

思考・判断・表現 40% : 定期テスト、課題テスト、小テスト等による目標への到達度を中心に評価します。

主体的に学習に取り組む態度 20% : 課題学習等の提出状況、及び学習の振り返りや授業中の取り組み状況を中心に評価します。

授業予定

「▼」は定期考査の実施時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
数学Ⅰ	数と式	/	■	■									/	/	/	/									/	/								/	/		
	集合と命題	/									■		/	/	/	/									/	/								/	/		
	2次関数	/						■	■	■	■			/	/	/	■								/	/								/	/		
	図形と計量	/																	■	■	■				■	■								/	/		
	データの分析	/																								/	/	■	■	■					/	/	
数学A	場合の数と確率	/			■	■	■						/	/	/		■	■	■						/	/								/	/		
	図形の性質	/											/	/	/								■	■		/	/				■	■	■		/	/	

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
1-07	理科	化学基礎	1	S・A・P	2	必修

何を学ぶか

- ・物質の構造・性質や反応などから自然科学の基本的な知識・概念や原理・法則を学ぶ。
- ・学んだ知識などを生かして物質の利用法や社会での活用の意味などを学ぶ。

学習目標

- ・化学的な事物・現象について、観察・実験を行う。
- ・自然に対する関心や探究心を高める。
- ・化学的に探究する態度や能力を深める。
- ・基本的な概念や原理・法則を理解し、自然を化学的にとらえられるようにする。
- ・エネルギーと物質の成り立ちについての理解を深める。
- ・科学技術や自然と人間の関わりについての理解を深める。

学習方法

使用教科書【数研出版710 新編 化学基礎】

- ・教室授業とともに、実験を通して物質の性質や化学変化の理解を深める。
- ・身の回りの自然に興味・関心を持ちながら学習する。
- ・問題演習を通じて計算法・理論を身につける。
- ・定期考査の他、適宜小テストを実施して理解度を確認する。

評価方法

知識・技能 50 % : 【定期考査、小テスト】

思考・判断・表現 30 % : 【定期考査、実験レポート】

主体的に学習に取り組む態度 20 % : 【提出物、実験レポート】

授業予定

「▼」は定期考査の実施時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月					
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬						
化学基礎	物質の構成	■	■	■	■	■							■	■	■	■										■	■	■							■	■	■			
	物質の構成粒子	■						■	■	■				■	■	■																				■	■	■		
	粒子の結合	■									■	■	■				■	■	■								■	■	■								■	■	■	
	物質質量と化学反応式	■																		■	■	■	■	■													■	■	■	
	酸と塩基の反応	■																									■	■	■									■	■	■
	酸化還元反応	■																																				■	■	■

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
1-08	理科	生物基礎	1	S・A	2	必修

何を学ぶか

- ・生物の持つ特徴に注目し、共通性と多様性について学ぶ。特に共通性については細胞や遺伝などミクロな視点で学習する。
- ・ヒトの体内環境を維持する仕組みについて学ぶ。具体的には神経系、内分泌系、免疫系という仕組みに迫り、体内環境で起こる情報伝達の仕組みについて学習する。
- ・生物の多様性と生態系について学ぶ。生物どうしの関わり合いや、生物と環境との関わりについて学習し、社会における生物学の役割についても学習する。

学習目標

- ・中学校理科の内容を踏まえ、分類・比較などの手法を用いて生命現象を理解する力を養う。
- ・実験や観察の結果を考察するために、表やグラフなどから正確な情報を読み取る力を養う。
- ・身近な地域社会と生物との関わりについて興味を持ち、環境と生物の共存に向けて有効な取り組みを考えられるようになる。

学習方法

使用教科書【数研出版707 生物基礎】

- ・授業前に必ず教科書に目を通しておく。その際、専門用語やわからない語句を調べておくこと。
- ・授業中は教員の説明をよく聞き、分からない所はその時間内に解決すること。
- ・家庭学習において、ノートや問題集を用いて、より深く理解するように努力すること。
- ・実習・実験には興味関心を持ち積極的に参加すること。
- ・実験レポート等、提出物を丁寧に作成すること。
- ・資料集は授業で必ず使用するため、必携すること。

評価方法

知識・技能 50% : 【定期考査、小テスト】

思考・判断・表現 30% : 【定期考査、小テスト、実験レポート】

主体的に学習に取り組む態度 20% : 【課題等提出物、実験レポート】

授業予定

「▼」は定期考査の実施時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
生物の特徴	生物の特徴	○	●	●	●	●	●						○	○	○	○										○	○								○	○	
	遺伝子とのはたらき	○						●	●	●	●	●	○	○	○												○	○								○	○
ヒトの体内環境の維持	ヒトの体内環境の維持	○											○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				○	○									○	○
生物の多様性と生態系	生物の多様性と生態系	○											○	○	○											○	○		○	○	○	○	○	○	○		

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
1-09	保健体育	保健	1	S・A・P	1	必修

何を学ぶか

・現代社会においては国民すべてにとって心身の健康増進が大きな課題となってきた。「保健」は、健康・安全に関する基礎的・基本的な内容を生徒が体系的に学習することにより、健康問題を認識し、これを科学的に思考・判断し、適切に対処できるようにすることをねらいとしており、生涯を通じて心身の健康増進を図るために実践する力を養う。

学習目標

・人間の一生のなかで、高校生の時期は体や心の発達という点から大変重要な意味を持っている。保健の授業では、個人としてだけでなく、社会の一員としてSDGsに絡めた健康の問題を考え、健康的な生活習慣を身につけることを目指す。
・生活環境を守るための知識と能力を高め、生涯を通じた健康づくりの基礎の確立を目指す。
・生活行動と健康との関わりや環境問題について自ら調査・研究し学習することにより、今後の生活において、健康増進に役立てられるようにする。

学習方法

使用教科書【大修館701 現代高等保健体育】

- ・日々の授業において単元の内容を理解するとともに、健康と安全に留意した日常生活が送れる態度を身につける。
- ・夏季休業中に、各自のテーマの分野から自分が興味関心のある事柄について深く研究を行い、レポートを作成する。
- ・2学期授業で、3分間でテーマについて発表ができるように内容をまとめ、重要な項目については資料を作成する。
- ・毎時間の発表は個人ノートに内容をまとめる。
- ・心肺蘇生法実習を3学期に行う。

評価方法

知識・技能 40 % : 1学期末考査・学年末考査の定期考査、2学期の課題レポートおよび記録用紙。

思考・判断・表現 30 % : 2学期に行う3分間スピーチ・1学期末考査・学年末考査の定期考査。

主体的に学習に取り組む態度 30 % : 自己評価用紙、各課題の取り組み状況により評価する。

授業予定

「▼」は定期考査の実施時期を示す

科目 /領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月			
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬				
保健	健康の考え方	■	■	■	■	■							■	■	■	■										■	■								■	■		
	健康の保持増進と病気の予防	■						■	■	■	■	■		■	■	■										■	■								■	■		
	3分間スピーチ	■										■		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■			■	■							■	■		
	感染症・性感染症	■																								■	■			■	■					■	■	
	精神の健康	■																														■	■			■	■	
	応急手当・心肺蘇生	■																																■	■			■

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
1-10	保健体育	体育	1	S・A	3	必修

何を学ぶか

- ① 自学・自律・自鍛の久御山高校の教育方針を踏まえて、生徒自らの自主性・主体性を培う。
- ② 生涯スポーツの観点から、計画的に運動を実践できる能力を養う。
- ③ 科学的根拠に基づいた運動実践により、自らの健康の増進と体力の向上ならびに精神面の強化を図る。

学習目標

- ・各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。
- ・体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。

学習方法

使用教科書【大修館701 現代高等保健体育】／使用副読本【大修館 ステップアップ高校スポーツ】

- ・1学期始めに、オリエンテーションをし、集団行動・スポーツテストを行う。
- ・各学期毎に選択種目を2種目を行う。各種目とも基本的な体力や技能の習得を目指す。
- ・また、剣道・ダンス・陸上の選択は1年2学期、2年1・2学期に行う。ただし2年次での変更は認められない。

評価方法

知識・技能 40 % : 基礎的な個人技能の実技テスト・自己記録用紙・自己評価用紙などを評価資料とする。

思考・判断・表現 30 % : ゲームや記録会などの応用技能、自己記録用紙・自己評価用紙などを評価資料とする。

主体的に学習に取り組む態度 30 % : 自己評価用紙、各課題の取り組み状況により評価する。

授業予定

「▼」は定期考査の実施時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
体育	集団行動・スポーツテスト		■	■									／	／	／											／	／								／	／	
	剣 道	／			■	■	■	■	■	■	■		／	／	／	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	／	／							／	／	
	体づくり運動	／			■	■	■	■	■	■	■		／	／	／											／	／								／	／	
	体育理論	／									■	／	／	／	／											／	／								／	／	
	サッカー	／			●	●	●	●	●	●	●		／	／	／	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	／	／	●	●	●	●	●	●	／	／	
	バレーボール	／			●	●	●	●	●	●	●		／	／	／	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	／	／	●	●	●	●	●	●	／	／	
	卓球	／			●	●	●	●	●	●	●		／	／	／	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	／	／	●	●	●	●	●	●	／	／	
	テニス	／			●	●	●	●	●	●	●		／	／	／	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	／	／	●	●	●	●	●	●	／	／	
	ダンス	／											／	／	／	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	／	／								／	／	
	陸上競技	／											／	／	／	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	■	／	／	■	■	■	■	■	■	／	／	

■は必修種目

* 3学期の陸上競技は長距離走とし、週2時間行う。

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
1-11	保健体育	体育	1	P	3	必修

何を学ぶか

- ① 自学・自律・自鍛の久御山高校の教育方針を踏まえて、生徒自らの自主性・主体性を培う。
- ② 生涯スポーツの観点から、計画的に運動を実践できる能力を養う。
- ③ 科学的根拠に基づいた運動実践により、自らの健康の増進と体力の向上ならびに精神面の強化を図る。

学習目標

- ・各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。
- ・体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。

学習方法

使用教科書【大修館701 現代高等保健体育】／使用副読本【大修館 ステップアップ高校スポーツ】

- ・1学期始めに、オリエンテーションをし、集団行動・スポーツテストを行う。
- ・各学期とも剣道を1時間行い、2時間は別の2種目を行う。各種目とも基本的な体力や技能の習得を目指す。

評価方法

知識・技能 40 % : 基礎的な個人技能の実技テスト・自己記録用紙・自己評価用紙などを評価資料とする。

思考・判断・表現 30 % : ゲームや記録会などの応用技能、自己記録用紙・自己評価用紙などを評価資料とする。

主体的に学習に取り組む態度 30 % : 自己評価用紙、各課題の取り組み状況により評価する。

授業予定

「▼」は定期考査の実施時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
体育	集団行動・スポーツテスト		■	■										■	■	■	■										■	■							■	■	
	剣 道	■				■	■	■	■	■	■	■	■			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■		
	体ほぐし・体育理論	■				■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■		
	ウェイトトレーニング	■				■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■		
	陸上競技	■												■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■			
	男:バスケットボール	■													■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■			
	女:バスケットボール	■													■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■			
長距離走	■												■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■				

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
1-12	保健体育	スポーツⅠ・Ⅱ・Ⅲ	1	P	4	必修

何を学ぶか

- ① 自学・自律・自鍛の久御山高校の教育方針を踏まえて、生徒自らの自主性・主体性を培う。
- ② 生涯スポーツの観点から、計画的に運動を実践できる能力を養う。
- ③ 科学的根拠に基づいた運動実践により、自らの健康の増進と体力の向上ならびに精神面の強化を図る。

学習目標

・各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。

学習方法

使用教科書【大修館701 現代高等保健体育】／使用副読本【大修館 ステップアップ高校スポーツ】

・スポーツ総合専攻1、2、3年生を専攻種目ごとの縦割り集団として、実戦的でレベルの高い専攻種目の授業を行う。

評価方法

知識・技能 40 % : 基礎的な個人技能の実技テスト・自己記録用紙・自己評価用紙などを評価資料とする。

思考・判断・表現 30 % : ゲームや記録会などの応用技能、自己記録用紙・自己評価用紙などを評価資料とする。

主体的に学習に取り組む態度 30 % : 自己評価用紙、各課題の取り組み状況により評価する。

授業予定

「▼」は定期考査の実施時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
スポーツ Ⅰ Ⅱ Ⅲ	剣道(男・女)	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	バスケットボール(女子)	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	バレーボール(女子)	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	陸上競技(男・女)	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	硬式野球(男子)	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	サッカー(男子)	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	ソフトテニス(女子)	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
1-13	芸術	音楽Ⅰ	1	S・A・P	2	選択

何を学ぶか

・歌唱、器楽(ギター、キーボード)、楽典、鑑賞

学習目標

・音楽を通じて「音」に対する感性を磨くとともに、芸術に親しみ生活を豊かにするための基礎を学ぶ。

学習方法

使用教科書【教育芸術社703 MOUSA1】

- ・歌唱：教科書その他から幅広い教材を用いて、独唱、斉唱、重唱をする。
- ・器楽：ギターやキーボードの基礎的な奏法を学び、それらを用いて小アンサンブルを楽しむ。
- ・鑑賞：映像や音源を通して、芸術を幅広く理解し音楽の良さや美しさを味わう。

評価方法

知識・技能 35 % :	創造的表現に必要な基礎的知識・技能を身につけている。 芸術を幅広く理解し、その良さや美しさを味わって鑑賞することができる。
思考・判断・表現 35 % :	知識・技能(課題を解決するために必要な思考力、判断力)を活用し、 表現につなげることができる。
主体的に学習に取り組む態度 30% :	音楽芸術全般に興味・関心を持ち、主体的に学習に取り組んでいる。

授業予定

「▼」は定期考査の実施時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
音楽Ⅰ	歌唱	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	器楽	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	楽典	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	鑑賞	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	実技テスト	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
1-14	芸術	美術 I	1	S・A・P	2	選択

何を学ぶか

- ・表現力・基礎：鉛筆デッサンによる観察力・描写力。遠近法に基づく空間や立体の表現技法。
- ・色彩学・基礎：色相環や色立体の理解・色の対比(色相／明度／彩度)の理解・演習・ポイントカラーの理解・演習。
- ・色彩表現力：色彩階調表現手法を用いた平面作品の制作。
- ・平面表現力：描写力、色彩表現力を活かして、自分の『意図』(構図・色彩)を平面に表現する。
- ・立体表現力：木彫によるレリーフ作品の制作。
- ・鑑賞：過去の著名な作家や職人、諸先輩の作品やサービスなどから美的感覚、表現手法、表現意図と効果を学ぶ。

学習目標

- ・目の前に見えている世界／物体を科学的論理的に認識した上で、それらを画面(紙面)に表現する力を養う。
(光／陰影／質感／色調／遠近感／立体感など)
- ・色彩学の基礎と色調対比の効果を学ぶことで、自分の意図したイメージを色調効果を活用して表現する力を養う。
- ・与えられた課題を指導された表現技法の手順に則った上で、自由な発想での色彩表現力を養う。
- ・木彫による立体表現力を養う。(今課題はレリーフなので半立体＝2.5次元の表現力)
- ・各作品や商品、サービスなどに込められた意図・効果を学び、自己の美的感覚や表現の幅を広げ、作品完成度の向上を図る。

学習方法

使用教科書【光村図書出版701 美術1】

- ・表現力・基礎：鉛筆によるデッサン(幾何形体)。
- ・色彩学・基礎：演習 絵の具を使って12色相環、色の対比(色相／明度／彩度)など色調による効果を確認し、活用できるようにする。
- ・平面表現：フォトイラストレーションの制作。(有名人の写真をもとに色彩階調表現手法を活用)
- ・立体表現：彫刻・レリーフの制作。(自分が選んだ動物をレリーフ彫刻してアクリルガッシュで着色)
- ・鑑賞：各分野の著名な作家や職人、諸先輩の作品や商品、提案物やサービスなどを教科書や資料画像を通して接する。

評価方法

- 知識・技能 35% : 基本的な表現技能を習得し、課題に応じた表現で丁寧に(完成度高く)仕上げられたか。
- 思考・判断・表現 35% : 課題を理解し、自ら主題を見つけ、自己の感性を働かせ、自分の意図した作品を完成するために最適な表現を創意工夫したか。
- 主体的に学習に取り組む態度 30% : 素直な気持ちで様々な作品に接したり、創作に生かしたり、多様な文化への理解を深められたか。
- 主体的に知識、および技能、表現力を身につけることに努めたか。
- 課題制作に対して、困難な状況に直面しても決してあきらめず粘り強く取り組めたか。
- すべての作品を完成させて提出することを原則とする。
- 出欠遅刻過多や授業態度について、点数化はしないが評価をする上での対象項目とする。

授業予定

「▼」は定期考査の実施時期を示す

科目/領域		単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月				
			上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬					
美術Ⅰ	絵画・基礎	鉛筆デッサン	○	●	●	●	●	●	●					○	○	○	○										○	○									○	○	○	
	色彩学・基礎	色彩学・演習	○							●	●			○	○	○	○										○	○									○	○	○	
	デザイン	フォトイラストレーション	○								●	●				●	●	●	●	●	●	●	●				○	○									○	○	○	
	彫刻	レリーフ	○											○	○									●	●	●	●	○	○	●	●	●	●	●	●			○	○	○
	鑑賞	鑑賞	○	●							●			○	○	○								●			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
1-15	芸術	書道 I	1	S・A・P	2	選択

何を学ぶか

- ・漢字の書・仮名の書・漢字仮名交じりの書と表装(裏打ちの方法)を学びます。

学習目標

- ・古典の鑑賞・臨書を通して基本的な技法を習得し、美の多様性を理解します。
- ・書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養います。

学習方法

使用教科書【教育出版704 書道 I】

- ・授業では主に古典といわれる名品を手本として学習します。
- ・漢字の書は五体のうちの楷書・行書の古典を、仮名の書は平安時代の古典を学習し、書の美の原理や基本的な用筆、運筆の技法を理解し、身につけます。
- ・半紙練習で基本書法を学んだ後、漢字は画仙紙に、仮名は料紙や短冊に清書し、多様な作品形式に対応する力をつけます。
- ・漢字仮名交じりの書制作では、これまでに学習した技法や美的感覚を生かして表現の工夫をします。
- ・漢字創作で完成した作品は裏打ちし、表装の基本となる工程を体験します。

評価方法

○知識・技能 35 % :

- ・書の表現の方法や、形式・表現の多様性について、書の創造的活動を通して理解を深めている。
- ・書の伝統に基づき、作品を効果的・創造的に表現するために必要な技能を身につけ、表している。

○思考・判断・表現 35 % :

- ・書のよさや美しさを感じ取り、意図に基づいて構想し、個性豊かに表現を工夫している。
- ・書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えたりしている。

○主体的に学習に取り組む態度 30 % :

- ・書の伝統と文化に豊かに関わり、主体的に表現や鑑賞の創作的活動に取り組もうとしている。
- ・書についての知識や技能を習得するために粘り強く取り組んでいる。

授業予定

「▼」は定期考査の実施時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
書道Ⅰ	楷書	●	■	■	■		■	■	■	■			●	●	●	●										●	●								●	●	
	行書	●											●	●	■			■	■	■						●	●								●	●	
	硬筆	●									■		●	●	●											■	●								●	●	
	裏打ち	●											●	●	●												■	●							●	●	
	仮名	●											●	●	●													■	■						●	●	
	漢字かな交じり	●											●	●	●												●	●					■	■	■	■	

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
1-16	外国語	英語コミュニケーションⅠ	1	S・A・P	3	必修

何を学ぶか

・積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身につけるとともに、文法事項をもとに高校で学ぶ英語の基礎づくりを目指し、「読む・書く・聞く・話す・やりとり、発表」という5領域での言語活動を総合的に学習する。

学習目標

・幅広い話題について、読んだことや聞いたことを理解し、情報や考えなどを英語で話したり、書いたりして伝える能力を更に伸ばすとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。

学習方法

使用教科書【啓林館714 LANDMARK Fit English Communication I】

- ① 新出単語及び熟語の意味、使い方等を理解する。
- ② 音読や黙読を通して英文を読み、Check Up! や Sum Up 等に取り組みながらその内容を把握する。
- ③ キーセンテンスをペアワーク等の言語活動を使って覚え、それを利用した自由英作文等で Speaking や Writing の力を伸ばす。
- ④ 定期的実施する単語テストで、単語の定着を図る。

評価方法

知識・技能 50 % : 定期考査・小テストの得点によって評価する。

思考・判断・表現 30 % : 定期考査・小テストの得点によって評価する。

主体的に学習に取り組む態度 20 % : ノート・ワークブック・課題プリント等の取り組みと提出状況を総合的に評価する。

授業予定

「▼」は定期考査の実施時期を示す

		▼			▼			▼			▼			▼			▼																						
科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月				
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬					
英語 コミュニケーション Ⅰ	Lesson 1	■	■	■	■	■	■						■	■	■	■										■	■	■							■	■	■		
	Lesson 2,3	■							■	■	■	■	■		■	■	■																			■	■	■	
	Lesson 4	■													■	■	■	■	■								■	■	■								■	■	■
	Lesson 5,6	■																		■	■	■	■	■	■		■	■	■								■	■	■
	Lesson 7,8	■													■	■	■										■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
1-17	外国語	論理・表現 I	1	S・A・P	2	必修

何を学ぶか

- ・中学校で既習の文法事項について復習し、初歩の文法を習得する。それをもとに高校レベルの文法事項について学習し、より深い知識を習得する。
- ・数多くの文章を暗唱し覚えることによって、会話の基本をしっかりと固め、話す、書く、伝えるといった活動につなげる。

学習目標

- ・高校レベルの基本的な文法をしっかりと身につけ、自分の考えや身の回りのことを英語で話したり、書いたり、伝えたりして表現能力を養う。
- ・このような活動を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身につける。

学習方法

使用教科書【開隆堂703 APPLAUSE English Logic and Expression I】

- ・高校レベルの文法事項を含んだ基本例文を理解し、ペアワーク等の言語活動を利用し暗記する。
- ・それをもとに、積極的に簡単な文章を書いたり、話したりして、自分の伝えたいことを表現する。

評価方法

知識・技能 50 % : 定期考査・小テストの得点によって評価する。

思考・判断・表現 30 % : 定期考査・小テストの得点によって評価する。

主体的に学習に取り組む態度 20 % : ノート・ワークブック・課題プリント等の取り組みと提出状況によって総合的に評価する。

授業予定

「▼」は定期考査の実施時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月					
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬						
論理・表現 I	Lesson 1	■	■										■	■	■											■	■									■	■			
	Lesson 2	■			■	■							■	■	■												■	■									■	■		
	Lesson 3	■					■	■					■	■	■													■	■								■	■		
	Lesson 4	■						■	■				■	■	■														■	■								■	■	
	Lesson 5	■								■	■			■	■	■												■	■									■	■	
	Lesson 6	■												■	■	■												■	■									■	■	
	Lesson 7	■												■	■	■												■	■									■	■	
	Lesson 8	■													■	■	■											■	■									■	■	
	Lesson 9	■													■	■	■											■	■									■	■	
	Lesson 10	■													■	■	■											■	■	■									■	■
	Lesson 11	■													■	■	■											■	■		■	■	■						■	■
	Lesson 12	■													■	■	■											■	■						■	■	■			■

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
1-18	情報	情報Ⅰ	1	S・A・P	2	必修

何を学ぶか

1. 情報と情報技術及びこれらを活用して問題を発見・解決する方法について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについて学ぶ。
2. 事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用できるようにする。
3. 情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画することができる知識をつける。

学習目標

1. 効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについて理解を深めるようにする。
2. 様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。
3. 情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。

学習方法

使用教科書【実教出版705 最新情報Ⅰ】

1. 授業は、実習が伴うため定期テスト以外はコンピュータ室で行う。
2. 授業はPC教室で行う。そのため、ローマ字入力でタイピングができるようにする。
3. 教科書は、プリントとの併用で使用する。内容に関しては、全教科にまたがるような内容が多いため、自分で考える、イメージを膨らませるなど答えを求めるのではなくその過程を自分なりにアレンジする力が求められる。
4. プログラミングにおいては、ExcelVBAを学ぶ。表計算を学ぶ過程での内容なので簡単でわかりやすい。
5. 実習は、1人で取り組む場合がほとんどだが、もともと個人差がある教科なので最低限の努力を惜しまなければ問題は無い。

評価方法

知識・技能 40 % : 情報と情報技術を問題の発見・解決に活用するための知識について理解し、技能を身に付けているかを定期テストで確認。

思考・判断・表現 40 % : 問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いているかを定期テストで確認。

主体的に学習に取り組む態度 20 % : 課題の提出内容による評価 出席率による評価

授業予定

「▼」は定期考査の実施時期を示す

科目／領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月				
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬					
情報Ⅰ	コンピュータの使用方法	■	■	■									■	■	■											■	■	■							■	■	■		
	情報と社会	■		■	■	■							■	■	■												■	■	■							■	■	■	
	システムとデジタル化	■			■	■	■							■	■	■	■										■	■	■								■	■	■
	Excel	■			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
	問題解決とその方法	■												■	■	■	■										■	■	■								■	■	■
	アルゴリズムとプログラミング	■												■	■	■	■										■	■	■								■	■	■
	データ活用	■												■	■	■	■										■	■	■								■	■	■

番号	教科名／科目名	学年	コース	単位数	備考
1-19	総合的な探究の時間	1	S・A・P	1	必修

何を学ぶか

- ・情報収集作業を通して情報を収集するためのツールを知り、効果的な使用方法を学ぶ。
- ・身近な中から課題を発見しその解決のために必要な計画の立て方を学ぶ。
- ・教科で得た知識と他者から得た多様な考え方を掛け合わせて課題の解決に必要な手法を見出す方法を学ぶ。
- ・様々な人々との話し合いを通じて、合意形成に必要なルールや他人を思いやること等について学ぶ。

学習目標

- ・目標を立てて地道に取り組み、生涯にわたり学び続けることができるようになることを目指す。
- ・柔軟な考えを持ち、進んで他人の考えを受け入れることができるようになることを目指す。
- ・失敗を恐れずチャレンジする力を養成する。

学習方法

- ・1学期は、簡単なテーマを通して探究活動に必要な基礎的な知識・技能を身につける。
- ・2学期は、地域社会に関することから課題を見つけて、改善や解決につながる探究活動を行う。
- ・3学期は2学期の学習をうけて、久御山の姿を知る活動または進路探究を行う。

評価方法

毎時間の活動内容(課題提出、グループ活動における貢献度)や成果発表、リフレクションシート、ポートフォリオ等により、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に取り組む態度」の3観点で総合的に評価する。

授業予定

「▼」は定期考査の実施時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月			
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬				
総合的な探究の時間	探究の基礎トレーニング①	■	■	■	■	■							■	■	■											■	■	■							■	■	■	
	地域連携	■						■	■	■	■	■	■	■	■												■	■	■							■	■	■
		■												■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■		■	■	■							■	■	■
		地域を知るor進路探究	■											■	■	■											■	■	■							■	■	■

※各自(またはグループごとに)テーマを設定し、研究発表を行う。

